

家言

学生①

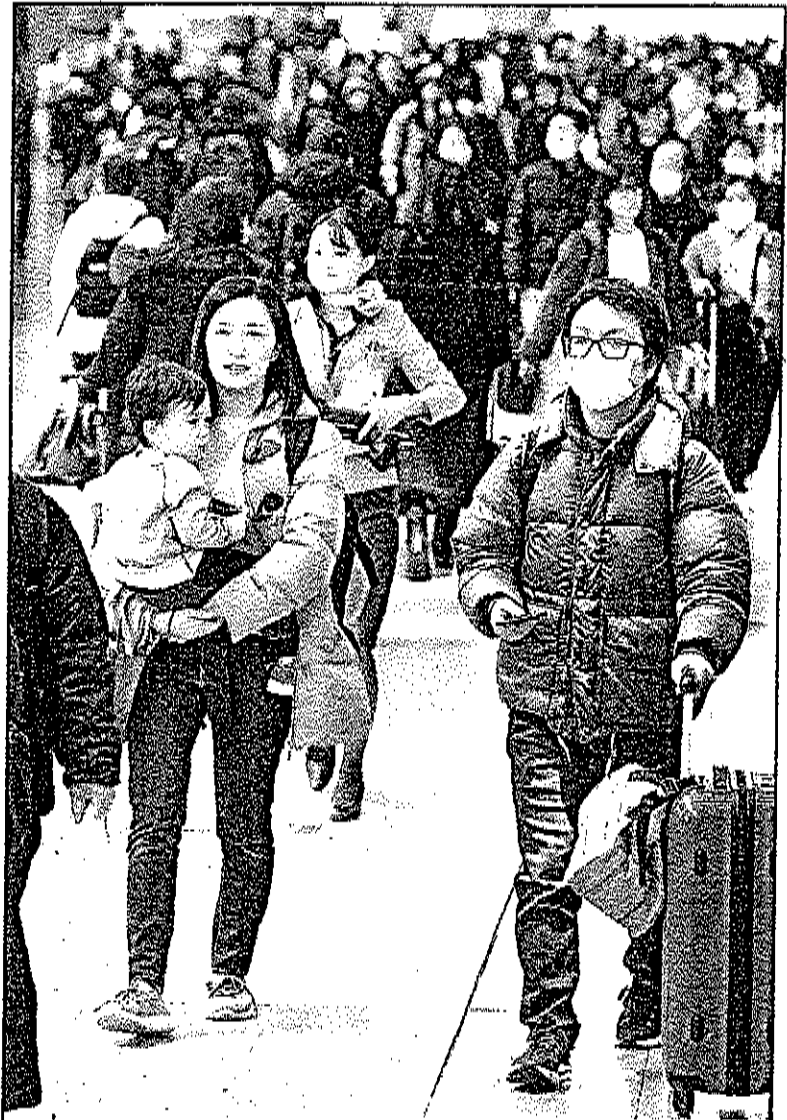
「儲けていた奨学金の返済が滞りなくできるか心配」。今年、大生になった田代由香さん(19)。「仮名」は、学生生活に期待を寄せつつ、卒業後に始まる奨学金返済に、不安な思いを抱いています。

■妹も私学

東海地方の私立大学に通う田代さん。年間の手賃は施設費なども含めて103万円です。年70万円の返済不要の給付型奨学金のほか、返済の必要が無く型奨学金(有利子)が月3万8300円。4年間で200万円近くを借りるつもりです。

実家から通学しています。双子の妹も別の私立大学に進学しました。

「家は自給自足で、収入が多いわけではない。両親からは



奨学金返せるか不安

『2人分の学費を同時に出すのは厳しい』といわれ、借りざるを得なかった」

大学では心理学を専攻。将来は、スクールカウンセラーになりたいと話します。中学時代に同級生がいじめられ、学校に通えなくなったのを目の当たりにしました。何もできなかつたことが悔しかったといえます。

今は週一回、学童保育でのアルバイトで、収入は一方、1万5千円ほど。地域の子どもの会の学童支援などにボランティアとして参加しています。

「普段から子どもと接することが好きです。衣食住が当たり前に保障され、自分の好きなことができる時間的、金銭的余裕のある社会であってほしい。苦しい思いをする人が少しでも減るような社会を望みます」

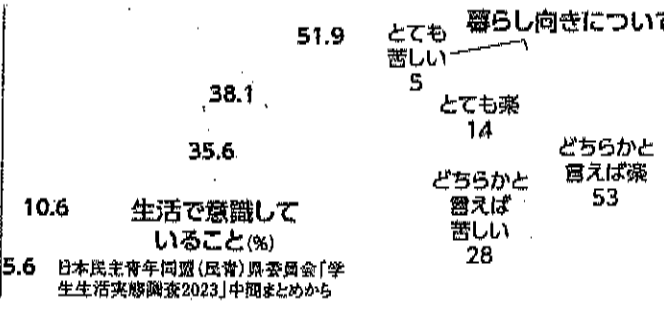
カウンセラーの職に就けても、「賞金が低いと奨学金を返済できず不安」と訴えます。奨学金を借りなければ

大学で学べない実態をどう償います。

■食費削り

「海外では数万円程度の学

日本民生青年同盟(民青)奨学金「学生生活実態調査2023」



費のところがあがる。なぜ日本は教育にお金をかけないのか不思議です。学費がもっと低ければやりたいこともできる。学費を低くして、奨学金を借りなくてもいいようにしてほしい」

日本民生青年同盟(民青)奨学金会は、学生生活に関する実態調査を実施。県内の大学と専門学校から1002人が回答しました。中間まとめでは、「アルバイトが生活の収入になっている」と答えた人が全体の98%に上りました。

「返済し向きについて」「アルバイトかと答えは楽」との回答は53%。しかし、生活で意識していることでは「食費を削っている」と答えた人が全体の51・9%、「学費免除・無償化」を求める回答も割合を伸ばしました。

奨学金会の担当者は「学生の声は切実です。返済し向きは楽と答えた人の中にも、食費を削って暮らしている人がいる」と話しています。(nns)

ました。(写真) 夫の故郷・沖縄県へ家族5人で帰省する仲西千春さん(29)は、「チケットを早めにとってよかったです。おじいちゃん、おばあちゃんと食卓を囲んでのんびりしたい」と話しました。

帰省ラッシュ羽田

おじい・おばあとのんびりしたい 帰省ラッシュのピークを迎えた29日、東京・羽田空港の国内線出発ターミナルは早朝から年末年始をふるさとや観光地で過ごす人たちで混み合い